

# 「アナフィラキシーについて」



総合診療科

なかの 光司  
中野 光司

山香病院だより vol.175

山香病院総合診療科中野光司と申します。

突然ですが、皆さんは、食べ物やお薬・喘息などのアレルギーをお持ちですか？

アレルギー症状には、皮膚症状としてかゆみを伴うじんま疹が代表的ですが、呼吸困難や血圧低下などを伴う場合もあり、このような重症なアレルギー症状のことを、アナフィラキシーと呼びます。また、見落とされがちですが、嘔吐や腹痛もアナフィラキシー症状として現れることがあります。

重篤なアナフィラキシーは、対応を誤ればショック状態や呼吸困難

状態に至り、命を落とす危険性さえある怖い病態です。

アナフィラキシーの原因となる物質として代表的なものは、薬剤・食物・そしてハチです。これらの物質に対してアレルギーを持つ方が、再度物質を体内に取り込むと、高い確率でアレルギー症状を起します。体調が優れないときや運動後など、特定の条件が加わると更に重症化(アナフィラキシー)を引き起こすと言われています。

アナフィラキシーの状態となった場合は、アドレナリンという薬剤を筋肉内注射する必要があり、通常のアレルギーの飲み薬

や塗り薬では効果はありません。特に、薬剤やハチ刺されによるアナフィラキシーは、摂取から発症までの時間が短い(15分以内)と言われています。

アナフィラキシーを発症した場合、すぐに救急車を呼ぶなどして病院へ行く必要がありますが、病院までの距離が遠い方や、外出中の方はもっと時間がかかってしまうことも珍しくありません。このような場面に用いられるお薬として、「エピペン」というアドレナリンの自己注射キットがあります。

このエピペンを携帯することにより、例えば外出先でハチに刺されてしまった場合など、ご自宅で重篤なアナフィラキシーを生じても、ご自分またはご家族の方が自宅や外出先で注射をすることができます。また、救急隊の方が使用することも可能ですので、病院到着までに少しでもアナフィラキシーを軽減できる可能性があります。

したがって、食べ物やお

薬、そしてハチによるアナフィラキシーの可能性がある方は、万が一に備えて、エピペンを携帯することをおすすめしています。エピペンの処方には医師の診察を受けていただき、適応か否かの判断を受けた上で薬局での処方が必要になります。

アナフィラキシーを起したことがある方・アレルギー検査で強いアレルギー反応を認められた方などは、ぜひ一度当科外来へお気軽にご相談ください。